

「臨床婦人科産科」第 76 巻 総目次

2022 年（第 1 号～第 12 号）

（増）は増刊号（4 号として発行）、数字は増刊号の頁数
（1）～（3）、（5）～（12）は号数、数字は通巻頁数

今月の臨床

●産婦人科医が知っておきたい臨床遺伝学のすべて （1）

〈領域共通〉

つまずきがちな臨床遺伝学の基本用語の解説

山田 重人・大瀬戸久美子…………… 6

いま産婦人科診療で求められる遺伝カウンセリングとは

三宅 秀彦……………12

産婦人科遺伝診療をめぐる倫理的課題

佐々木愛子……………17

家族歴と家系図の記載のしかた

福島 明宗……………23

〈周産期〉

周産期領域で臨床遺伝学はどのように活用されているか

佐村 修……………29

出生前検査の妊婦への周知

保坂 千秋・浜之上はるか……………35

周産期の遺伝医療において超音波検査がどのように活用されているか

花岡有為子……………42

コンバインド検査・母体血清マーカー検査の基本原則・精度と実施法

長谷川潤一・本間 千夏・西村 陽子……………48

NIPT の基本原理・精度と実施法

鈴木 伸宏……………54

羊水検査・絨毛検査の適応と実施法

三浦 生子・長谷川ゆり・三浦 清徳……………62

確定的出生前遺伝学的検査の具体的な解析方法と結果の解釈

佐藤 智佳・島田 咲・山田 崇弘……………69

先天異常で出生した児にどのような検査を行うか

岡本 伸彦……………76

〈腫瘍〉

婦人科腫瘍領域では臨床遺伝学はどのように活用されているのか

渡邊 尚文……………82

HBOC に対応するための知識—遺伝性疾患としての病態，診断法，治療ないし対応法と説明の際の留意点

西野 幸治・関根 正幸・榎本 隆之……………88

Lynch 症候群に対応するための知識—遺伝性疾患としての病態，診断法，治療ないし対応法と説明の際の留意点

志鎌あゆみ……………96

Peutz-Jeghers 症候群および Cowden 症候群についての必修知識

小林 佑介……………104

がんゲノム医療と germline findings の取り扱い

小川千加子・増山 寿・平沢 晃……………111

コンパニオン診断の婦人科実地臨床での活用

織田 克利……………119

婦人科関連遺伝性腫瘍に関する国内外ガイドラインの最新事情

植木 有紗……………125

〈生殖〉

生殖医療では臨床遺伝学はどのように活用されているのか

片桐由起子・林 裕子・玉置 優子……………131

単一遺伝子疾患に対する着床前遺伝学的検査（PGT-M）の実際

中岡 義晴……………136

不妊症に対する着床前遺伝学的検査の実際

桑原 章……………143

不育症に染色体・遺伝子の異常がどのように関わっているのか

小澤 伸晃……………148

着床前遺伝学的検査での具体的な解析方法と結果の解釈

古俣 知里・加藤 武馬・倉橋 浩樹……………155

男性不妊症に対応するための遺伝学の知識と遺伝カウンセリング

市川 智彦・宇津野恵美・高橋 敬一……………162

〈女性医学〉

女性医学で活用される臨床遺伝学

白土なほ子……………169

●妊娠初期の経過異常とその対処—流産・異所性妊娠・絨毛性疾患の診断と治療 (2)

〈妊娠の確認〉

分娩予定日の決定

佐久間淳也・中田 雅彦…………… 196

〈流産〉

流産の診断

永易 洋子・大道 正英…………… 200

経口妊娠中絶薬の現状

宮武 里沙・熊澤 恵一・大須賀 穰…………… 207

手動真空吸引法 (MVA) の使用法

川上 浩介・吉里 俊幸…………… 213

〈異所性妊娠〉

異所性妊娠の病因と疫学

村上 圭祐・板倉 敦夫…………… 221

異所性妊娠の超音波診断

谷垣 伸治・柳下 玲子・金村 彰香

木内健士朗・浅野 史男・石川 美佳

佐藤 泰紀・北村 亜也・小林 千絵

小林 陽一…………… 227

異所性妊娠の MRI 診断

伊良波裕子・銘苅 桂子…………… 233

異所性妊娠の薬物療法の適応と治療法

難波 聡…………… 239

異所性妊娠の待機療法の基準

難波 聡…………… 243

卵管間質部妊娠の手術療法

渡辺 正・黒澤 大樹・渡部 洋…………… 247

頸管妊娠への対応

末包 智紀・羽室 明洋・橘 大介…………… 255

帝王切開癒痕部妊娠への対応

森川 恵司・上野 尚子・児玉 順一…………… 262

〈絨毛性疾患〉

絨毛性疾患の臨床的分類

新美 薫・山本 英子…………… 272

絨毛性疾患の画像診断

小松 篤史…………… 279

胞状奇胎の診断・治療・管理

井篁 一彦…………… 287

●がん遺伝子検査に基づく婦人科がん治療—最前線のレジメン選択法を理解する (3)

〈遺伝子診断〉

がん遺伝子検査の種類と適切な時期

仲尾 岳大・原野 謙一…………… 310

BRCA 遺伝学的検査とはどのような検査か、何がわかるか

西野 幸治・西川 伸道・関根 正幸

榎本 隆之…………… 317

BRCA 病的バリエーションが検出された際の対応

植野さやか・平沢 晃…………… 324

HRD 検査とはどのような検査か、何がわかるか

長尾 昌二・中澤 浩志…………… 332

MSI 検査とはどのような検査か、何がわかるか

小柳 貴裕・藤原 寛行…………… 339

がん遺伝子パネル検査の結果解釈に必要な知識

織田 克利…………… 346

〈治療薬〉

PARP-trapping 作用からみた PARP 阻害薬の感受性因子と抵抗性因子

村井 純子…………… 354

PARP 阻害薬の使い分け (初回・再発)

武隈 宗孝…………… 361

PAOLA-1 レジメンとは？ およびその位置づけ

藤原 聡枝・大道 正英…………… 368

免疫チェックポイント阻害薬の位置づけ

濱西 潤三・山ノ井康二・浮田真沙世

滝 真奈・山口 建・万代 昌紀…………… 373

〈今後期待される検査〉

リキッドバイオプシーの有用性

岩橋 尚幸・井篁 一彦…………… 380

●最新の不妊症診療がわかる！—生殖補助医療を中心とした新たな治療体系 (増)

親子関係に関する民法の特例法について

石原 理…………… 6

〈第1章 生殖補助医療の適応と意義—どんな患者さんが体外受精・顕微授精を受けるのか〉

体外受精・顕微授精の適応—体外受精・顕微授精の絶対適応と step up の基準

小田原 圭・小田原 靖…………… 10

生殖補助医療の成功率を規定する因子

高橋 俊文・太田 邦明・神保 正利…………… 14

子宮筋腫・内膜症と体外受精—その不妊機序と一般不妊治療・体外受精の有効性

小野 政徳・山田 悦子・河村ともみ

久慈 直昭・西 洋孝…………… 18

〈第2章 生殖補助医療とその手技〉

□採卵と麻酔—低侵襲な採卵手術

採卵困難症例と対応—採卵針の工夫など

瀬川 智也…………… 24

□体外受精—受精失敗を回避して、多くの良好受精卵を獲得する

体外受精で受精失敗を回避するために—split-ICSI・rescue-ICSI の意義

平岡謙一郎・川井 清考…………… 29

顕微授精で受精失敗を回避するために—人為的卵子活性化	
長谷川久隆……………	33
顕微授精で受精卵の障害を低減するために—紡錘体の確認と Piezo-ICSI	
奥山 紀之・京野 廣一……………	37
ヒアルロン酸結合能による精子選別— PICS の有用性	
清水 勇聡・神山 洋……………	41
高倍率観察による精子選別— IMSI と ZyMot の有用性	
家田 祥子……………	46
□胚培養—着床率の高い受精卵を選別して妊娠率を向上させる	
培養液と培養環境— one-step 培養液と sequential 培養液, pH 測定など	
泊 博幸・詠田 由美……………	53
ヒト胚の発生と形態学的胚評価	
大月 純子……………	58
タイムラプスによる胚評価法—その臨床的意義	
湯本啓太郎・見尾 保幸……………	63
PGT-A による染色体正常胚の選別—その適応と臨床的意義	
原田 枝美・河野 康志……………	71
□胚移植と子宮内環境—良好な子宮内環境に受精卵を確実に移植する	
胚移植失敗の原因と回避—移植胚数と胚移植の基本的	
手技	
佐藤 卓・水口 雄貴……………	77
着床を促進する因子—内膜スクラッチ・エンブリオ	
グルー	
大石 元……………	83
慢性子宮内膜炎・子宮内細菌叢と着床—子宮内環境の	
評価法と治療法	
黒田 恵司……………	89
着床時期検査の実施法と有用性	
松林 秀彦……………	93
子宮内膜増殖不全に対する多血小板血漿 (PRP) 療法	
久須美真紀・堤 治……………	97
SEET 法による子宮内環境の調整法	
後藤 栄……………	102
免疫操作法 (1) — Th1/Th2 とタクロリムス	
中川 浩次……………	107
免疫操作法 (2) —アスピリン・ヘパリン・免疫グロ	
ブリン・脂肪乳剤・プレドニゾロン・ヒドロキシ	
クロロキン	
福井 淳史・山谷 文乃・柴原 浩章……………	111
□胚凍結—受精卵を効率的に安全に凍結する	
凍結胚移植の内膜調整—自然周期・ホルモン補充周	
期・排卵誘発周期移植の概要と特質	
向田 哲規……………	117
新鮮胚移植と凍結胚移植の安全性	
岩佐 武・湊 沙希・山本 由理……………	122
〈第3章 生殖補助医療の調節卵巣刺激〉	
卵胞発育の最新理論解説とランダムスタート法—なぜ	
3日目からの刺激なのか, ランダムスタートでど	
う変わったか	
黄 海鵬・高井 泰……………	128
卵巣刺激法の選択と AMH・AFC—卵巣予備能にあ	
わせた刺激法を	
浅田 義正……………	132
卵巣過剰刺激症候群 (OHSS) 回避の最近の考え方	
北原 慈和・岩瀬 明……………	136
□卵巣刺激薬	
クロミフェン・レトロゾールを用いた調節卵巣刺激	
唐木田真也・加藤 恵一……………	140
rFSH 製剤・ホリトロピンデルタ (レコベル®) の用	
い方と有用性	
松山 玲子・藤本 晃久・西井 修……………	145
ホルモン受容体陽性乳がん患者に対する妊孕性温存療	
法におけるアロマターゼ阻害薬を併用した調整卵	
巣刺激の意義	
前沢 忠志・池田 智明・鈴木 直……………	149
自然周期採卵 (natural cycle) の意義	
貝嶋 弘恒・藤城 栄美・米山 剛一……………	155
□内因性 LH サージ抑制法	
Long 法・Short 法	
銘苅 桂子……………	160
凍結融解胚移植の治療成績がよいのはなぜ?	
吉田 淳……………	163
プロゲステロンによる新しい LH サージ抑制—PPOS	
法による調節卵巣刺激	
山田 愛・塩谷 雅英……………	165
□LH サージ誘発法 (trigger)	
hCG 投与とそれ以外の LH サージ誘発法— double/	
dual trigger・r-hCG とその臨床的意義	
杉山 力一・中川 浩次……………	171
〈第4章 生殖補助医療時代の一般不妊診療—検査や	
治療の意義と限界〉	
□内分泌学的検査	
各種ホルモン測定の実施法と評価法—FSH・LH・	
E ₂ ・P ₄	
片桐由起子……………	178
インスリン抵抗性の検査と評価法—生殖補助医療での	
活用法	

北村 誠司	181
甲状腺ホルモンと不妊—TSH・FT ₄ ・FT ₃ ・抗甲状腺抗体	
吉原 愛	184
プロラクチンと不妊	
林 正美・大道 正英	188
卵胞発育モニタリングと基礎体温—排卵日予測の現在と未来	
白藤 文・宮崎有美子・折坂 誠	192
□卵管疎通性検査と治療	
卵管疎通性検査の実施法と評価法	
佐藤 健二	196
クラミジア検査の適応と診断法	
中林 章	200
子宮鏡下選択的通水と卵管鏡下卵管形成術—どのような場合にARTに切り替えるか	
田島 博人	202
腹腔鏡検査の意義と適応—体外受精を見据えて	
宇津宮隆史	206
□子宮因子	
office hysteroscopy—どこまでできるか?	
升田 博隆	212
子宮内病変とその治療—子宮奇形・子宮内膜炎・子宮内ポリープ・子宮筋腫	
栗林 靖	217
子宮内膜蠕動様運動の検査法とその評価	
吉野 修・本田 雅子・大須賀 穰	
平田 修司	221
□原因不明不妊症・PCOSへの対応	
原因不明不妊症に対する卵巣刺激—クロミフェン・レトロゾール・hMG	
熊澤由紀代	225
多嚢胞性卵巣症候群の診断と治療—診断とレトロゾールによる排卵誘発	
松崎 利也・湊 沙希・岩佐 武	228
□人工授精の実際	
子宮内授精と頸管内授精	
木村 寛子・内田 浩	233
人工授精のタイミングとhCG投与、黄体補充のプロトコル	
福原 理恵・淵之上康平・横山 良仁	236
人工授精の際の精子調整・精子凍結の方法と留意点	
福岡 美桜・山田 満稔・宇津野宏樹	
上條慎太郎・浜谷 敏生・田中 守	239
□男性不妊—検査	
精液検査の実施法と評価法—どういふ場合に何を疑うか	
湯村 寧・齋藤 智樹・竹島 徹平	245

泌尿器科的診察・陰嚢超音波・CT/MRI	
大橋 正和・森田 伸也・高松 公晴	250
男性不妊のホルモン測定の実施法	
佐藤 雄一・小川総一郎・小島 祥敬	255
重症男性不妊に対する染色体・遺伝子検査の適応と意義	
小宮 顕	258
抗精子抗体の意義	
柴原 浩章・本田 晴香・武田 和哉	
脇本 裕	263
□男性不妊—治療	
男性不妊症に用いられる薬物療法の種類と実施法	
白石 晃司	267
精索静脈瘤根治術の適応と有効性	
辻村 晃	271
simple TESEとmicrodissection TESEの適応と実施法	
岡田 弘・岩端 威之・杉本 公平	274
逆行性射精の診断と治療—精子採取法	
小林 秀行	278
〈第5章 提供精子・提供卵子〉	
精子提供と提供精子の需要、子どもの出自を知る権利	
吉政 佑之・浜谷 敏生	282
卵子提供とその問題点	
久具 宏司	286
子宮移植の現状	
阪埜 浩司・木須 伊織・青木 大輔	290
●妊娠時の栄養とマイナートラブル豆知識—妊娠生活を快適に過ごすアドバイス (5)	
〈妊婦と栄養〉	
葉酸・マルチビタミンの妊娠中の利点	
中井 章人	410
乳酸菌と早産予防	
米田 哲・齋藤 滋	416
妊娠中、カフェインはどれだけ摂取してよいのか	
石本 人士	423
妊娠時における飲酒・喫煙のリスク—エコチル調査から	
目時 弘仁	429
妊娠中、魚介類はどれくらい摂取してよいのか	
川城由紀子	435
妊婦の栄養と至適体重増加量改訂—2021年日本産科婦人科学会「妊娠中の体重増加の目安について」から	
上田めぐみ・幸村友季子・伊東 宏晃	440
〈妊婦にみられるマイナートラブルと薬剤投与のコツ〉	
妊娠女性の頭痛への対処	
三島 就子	446

妊婦貧血への対応	
内田 季之……………	452
妊娠悪阻・唾液分泌過多に対する漢方療法—小半夏加茯苓湯などの処方の実例	
森 裕紀子・花輪 壽彦……………	459
胃炎合併妊婦への薬剤の選び方	
嶋田 真弓・和栗 雅子……………	465
妊娠中の便秘処方と漢方	
中山 毅・向 亜紀・浅沼 栄里……………	473
妊娠時のむくみ・こむら返りへの対処	
山本 伸一・小井戸 茂, 内田 能安……………	478
掻痒・皮膚炎などの妊娠時における皮膚症状への対処	
吉田 和恵……………	486
妊娠時の耳閉感・鼻づまりへの対処	
池谷 美樹……………	493

●生殖医療・周産期にかかわる法と倫理—親子関係・医療制度・虐待をめぐる(6)

〈新しい家族のかたちをめぐる諸問題〉	
卵子提供によって出生した子の親子関係	
石原 理……………	518
提供精子によって出生した子の親子関係—出自を知る権利を含めて	
久慈 直昭……………	523
代理懐胎によって出生した子の親子関係	
南 貴子……………	529
婚姻・妊娠・出産をとりまく法と産婦人科の接点	
久具 宏司……………	536
LGBT カップルが子をもつ場合の親子関係	
中塚 幹也……………	547
特別養子縁組制度—普通養子縁組制度との違い	
高橋 幸子……………	554
〈周産期にかかわる医療制度〉	
入院助産制度と出産扶助・医療扶助	
長治 誠……………	560
わが国における医療安全施策	
梅木 和宣……………	569
産科医療補償制度の変遷	
鈴木 英明……………	574
〈周産期の虐待をめぐる諸問題〉	
DV 防止法と周産期医療	
桑原 博道・田村 孔……………	581
新生児の医療ネグレクトへの対応	
保条 成宏……………	587
改正児童虐待防止法と周産期臨床	
板澤 寿子……………	592

●子宮内膜症の最新知識—この1冊で重要ポイントを網羅する(7)

〈はじめに〉	
子宮内膜症の発生源説	
村上 幸祐・松村 謙臣……………	618
〈疼痛を主訴とする場合〉	
子宮内膜症の疼痛に対する薬物療法の選択肢と効果の差	
森 泰輔……………	624
子宮内膜症の疼痛に対して手術療法を選択する場合	
北島 道夫……………	630
〈不妊を主訴とする場合—ART が先か手術が先か、子宮腺筋症の場合は?〉	
子宮内膜症性不妊症の治療戦略—ガイドラインとリアルワールドのギャップを考える	
高橋 俊文……………	637
子宮内膜症合併不妊症に対する ART の有用性	
山下 能毅・井川佳世恵・大道 正英……………	643
子宮内膜症性不妊症に対する腹腔鏡手術の有用性と手技	
明樂 重夫……………	650
子宮腺筋症合併不妊の治療戦略	
木村 文則・川口 龍二・赤坂珠理晃……………	657
〈周産期予後〉	
妊娠中のチョコレート嚢胞の管理	
永瀬 慶和・上田 豊・木村 正……………	664
子宮内膜症・子宮腺筋症女性における周産期合併症リスクの考察	
小谷 友美・牛田 貴文……………	670
〈画像診断〉	
子宮内膜症の画像診断のポイント—良性・がん化例の典型症例からビットフォール症例まで	
坪山 尚寛・大西 裕満・富山 憲幸……………	676
〈がん化〉	
がん化のメカニズム	
山口 建……………	682
稀少部位子宮内膜症のがん化—日本産科婦人科学会腫瘍委員会全国調査から	
万代 昌紀……………	690

●HPVワクチン勧奨再開—いま知りたいことのすべて(8)

〈総論〉	
HPV ワクチン積極的勧奨再開に思う	
岡部 信彦……………	718
〈HPV と子宮頸がん・HPV 関連疾患〉	
HPV 発がんの機序と感染制御機構	
川名 敬……………	725

日本人における子宮頸がん分離 HPV 型と HPV ワクチン—9 価ワクチンの意義	
小貫麻美子・松本 光司	732
肛門性器疣贅と外陰部前がん病変	
笹川 寿之・斎藤まゆみ・島田 董	
三部 一輝・高田 笑・藤田 智子	738
再発性呼吸器乳頭腫症・中咽頭がん	
室野 重之	746
〈HPV ワクチンの有効性〉	
2 価・4 価ワクチンを使用した日本・海外における臨床データ	
黒澤めぐみ・山口真奈子・工藤 梨沙	
関根 正幸・榎本 隆之	754
9 価ワクチンの有効性と安全性—海外の知見から	
宮城 悦子・吉岡 俊輝・魚本 真理	
道佛美帆子・今井 雄一	762
〈副反応の問題〉	
HPV ワクチン積極的接種勧奨中止への経緯	
山田 正興	769
HPV ワクチンの副反応に関する国内外の報告	
八木 麻未・上田 豊・木村 正	774
HPV ワクチン接種後の慢性疼痛—小児・思春期の痛みと HPV ワクチン接種後の痛み	
尾張 慶子・丹羽 英美・牛田 享宏	781
〈世界の趨勢と特殊な集団への接種〉	
世界における HPV ワクチンの現状	
井篁 一彦	788
思春期以降の HPV ワクチン接種	
今野 良	794
〈検診との関係〉	
ワクチン接種を前提とした子宮頸がん検診の将来像	
藤井多久磨	800
●胎児発育のすべて—FGR から巨大児まで (9)	
〈発育異常の評価〉	
胎児体重の推定法—歴史とともに	
篠塚 憲男	830
FGR の定義と原因総論	
亀井 良政	838
巨大児の計測方法の工夫	
池ノ上 学	843
〈原因からみた胎児発育の異常〉	
FGR と胎盤の形態異常	
谷口千津子	849
FGR と胎盤限局性モザイク	
難波 聡	855
FGR と臍帯の異常	
古谷 菜摘	861

FGR と妊娠高血圧症候群	
大口 昭英	869
FGR における胎児先天異常—染色体異常, 胎児心疾患を中心に	
小澤 克典・和田 誠司・左合 治彦	875
巨大児の原因・機序とその予後	
室本 仁・杉林 里佳・小澤 克典	
和田 誠司	882
〈FGR 児の重症度評価方法〉	
血流の測定方法のコツ—臍帯動脈, 中大脳動脈を中心に	
山本 祐華	887
羊水量の評価方法と羊水過多・羊水過少の診断	
永易 洋子・大道 正英	894
娩出時期の判断—特に胎盤機能不全による FGR について	
安田 俊・福田 冬馬・藤森 敬也	901
〈予後〉	
FGR 出生児の予後—DOHaD 仮説を踏まえて	
江畑 晶夫	910
●女性医学から読み解くメタボリック症候群—専門医のための必須知識 (10)	
女性のライフステージにおけるメタボリック症候群	
澤田健二郎	938
〈女性ホルモンとの関係〉	
内臓脂肪型肥満に対する女性ホルモンの影響	
小林 範子	950
脂質代謝に対する女性ホルモンの影響	
篠原 康一	958
糖代謝に対する女性ホルモンの影響	
岡野 浩哉	965
血圧の変動に対する女性ホルモンの影響	
北島 道夫	975
動脈硬化に対する女性ホルモンの影響	
山田 容子	981
〈疾患・分野別編〉	
PCOS とメタボリック症候群	
高橋 俊文・大越 千弘・神保 正利	987
妊娠糖尿病とメタボリック症候群	
柳沢 慶香	993
妊娠高血圧症候群とメタボリック症候群	
増山 寿	1000
子宮筋腫とメタボリック症候群	
武田 卓	1006
子宮内膜症とメタボリック症候群	
前田 英子・森 泰輔	1011
がん治療によるメタボリック症候群への影響—肥満・	

脂質異常・心血管疾患・糖尿病を中心に 佐々木 浩……………	1017
〈最新治療編〉 脂質異常症に対する最新治療 小川真里子・橋本 志歩・高松 潔……………	1022
肥満に対する最新治療—抗肥満薬の現状と未来 上野 浩晶……………	1028
●生殖医療の安全性—どんなリスクと留意点があるのか？ (11)	
〈わが国の臨床統計〉 学会登録データからみた ART の安全性 玉置 優子・片桐由起子……………	1052
小児・NICU 施設からみた ART の安全性 不破 一将・森岡 一郎……………	1058
〈患者に対する安全性〉 OHSS とその予防・治療 黄 海鵬・高井 泰……………	1067
採卵 大石 博子・加藤 聖子……………	1077
ART 妊娠の周産期合併症 田村 博史……………	1083
ART を受ける患者の精神的支援 各務 真紀・丸山 哲夫……………	1089
TESE の安全性 千葉 公嗣・藤澤 正人……………	1094
〈ART 手技の安全性〉 顕微授精の安全性 服部 裕充・田井 俊宏・京野 廣一……………	1099
PGT・胚生検の安全性 佐藤 卓・水口 雄貴……………	1105
多胎—二卵性、一卵性多胎 岩佐 武・野口 拓樹・内芝 舞実 山本 由理……………	1112
〈受精卵、児・家族への影響〉 先天性疾患・小児がん 中林 章……………	1118
先天性心疾患と循環器系異常 森本 美仁・小谷 友美・加藤 太一……………	1123
ART 出生児の長期予後 上野 啓子・小野 政徳・西 洋孝 久慈 直昭……………	1129
受精卵・出生児・胎盤の遺伝子変異 濱田 裕貴・宮内 尚子・有馬 隆博……………	1134
ART で形成された親子・家族 勝又 由美……………	1140

●帝王切開分娩のすべて—この 1 冊でわかる New Normal Standard (12)

帝王切開の歴史 亀井 良政……………	1168
〈帝王切開手術の準備〉 TOLAC の適応と成功に關与する諸因子 小林 康祐……………	1174
選択的帝王切開分娩の至適時期—新生児呼吸障害 村越 毅……………	1180
〈術式の工夫〉 開腹時の工夫—膀胱損傷を防ぐために 鷹野 夏子・亀井 良政……………	1184
子宮筋層の切開法—切開部位・切開方法と胎児損傷回避の方策 野田 佳照・関谷 隆夫……………	1188
子宮筋層縫合術の工夫—縫合不全・瘢痕部菲薄化の予防のために 小谷 友美・牛田 貴文……………	1196
皮膚縫合の工夫 小川 令……………	1202
早産児帝王切開の工夫—幸帽児（被膜児）娩出の工夫 江良 澄子……………	1207
前置癒着胎盤の帝王切開・Cesarean hysterectomy 西島 浩二……………	1211
帝王切開創部縫合時における浅筋膜の構造と見つけ方 草開 妙・谷村 悟……………	1221
〈術前・術中管理〉 帝王切開分娩の食事・飲水制限と輸液 正田 陽子・岡田 尚子……………	1227
硬膜外無痛分娩中の緊急帝王切開分娩の麻酔 細川 幸希……………	1233
術中・術後の子宮収縮薬の投与方法 日向 俊輔……………	1239
死線期帝王切開術の国内の実施状況 今井 紀昭・齋藤 彩・石川 源 室月 淳……………	1246
死戦期帝王切開術における心肺蘇生—麻酔科の立場から 加藤 里絵……………	1253
〈術後の長期合併症の管理〉 帝王切開癒着症候群の病態と治療 谷村 悟……………	1261

症例

診断が困難であった妊娠初期の腹腔内出血に対し腹腔鏡手術を施行した症例 清水 美代・田村 祐子・渡邊 愛 加藤 淑子・福岡 正晃……………	175 (1)
--	---------

分娩後に非典型溶血性尿毒症症候群を発症した加重型 妊娠高血圧腎症の1例 大川 雅世・伊藤 雅之・太田沙緒里 成富 祥子・丸岡 寛・村上 法子 津戸 寿幸・加藤 俊・亀谷 英輝	291 (2)
妊娠30週に糖尿病性ケトアシドーシスを発症した急性 発症1型糖尿病の1例 武蔵 実久・佐藤 孝洋・藤本久美子 片平 敦子・船山由有子.....	388 (3)
漿膜下子宮筋腫捻転による急性腹症の1例 林 茂空・小野 政徳・鷺坂 誠宏 大村 涼子・小島 淳哉・小野 理貴 佐々木 徹・山本阿紀子・西 洋孝	393 (3)
BMI 53 kg/m ² の高度肥満子宮体がん患者に対して腹 腔鏡下手術を施行した1例 宮崎 聖子・村上 望美・清水 悠仁 中村 堇・岩崎 聡美・堀 新平 井手上隆史・荒金 太・福松 之敦	499 (5)
CCRT直前に脳出血を発症したが、治療を完遂でき た子宮頸がん・II B期の維持透析患者の1例 向山 文貴・木村 博昭・後藤 優希 廣瀬 雅紀・安部真希子・清水わか子 平敷好一郎.....	599 (6)
卵管に発生した子宮内膜症病変から多量の腹腔内出血 をきたした1例 藤尾加代子・福田 久信・重松 祐輔 増崎 雅子・入江 準二・小寺 宏平	704 (7)
反復する parasitic leiomyoma に良性転移性平滑筋腫 を併発していると考えられた1例 清水 拓哉・雨田 恵・大谷 清香 荏部 瑞穂・美濃部奈美子・木林潤一郎	815 (8)
帝王切開癒痕部の瘻孔により生じた膀胱子宮窩腹膜下 の血液貯留が原因と考えられた難治性頻尿の1例 大塚伊佐夫.....	923 (9)
子宮全摘後に後腹膜に再発を繰り返した悪性度不明な 子宮平滑筋腫瘍の1例 山本 文子・山本 直・高木 みか	

西村 弘・柳田恵理子・村山 寿彦	1035 (10)
同一起源と考えられた腺癌と・扁平上皮癌による子宮 頸がんの衝突がん 栖田 園子・高橋 良輔・安積 麻帆 鷲尾 佳一・清水 真帆・長又 哲史 村田 友香・寺井 義人.....	1153 (11)

FOCUS

〔シリーズ〕産婦人科と「働き方改革」 〈第1回〉 産婦人科の、私たちの未来がかかる「働き方改革」 鈴木 幸雄.....	696 (7)
〈第2回〉 「医師の働き方改革」と学会の現在地 榎本 隆之・増山 寿・中川 慧	808 (8)
〈第3回〉 行政からみた「医師の働き方改革」 松本 晴樹.....	918 (9)
〈第4回〉 大学における「医師の働き方改革」 大槻 克文.....	1146 (11)

Obstetric News (武久 徹)

40歳以降の女性に対する適切な避妊法：ホルモン避 妊製剤を何歳で中止できるか？—米国産婦人科学 会.....	179 (1)
前兆がある片頭痛がある女性に対する閉経ホルモン療 法.....	181 (1)
40歳以上の女性に対する避妊法の適合性—経口避妊 薬—英国産婦人科学会ガイドライン	297 (2)
ホルモン補充療法（HRT）は避妊とともに／または 代わりに使用できるか？—英国産婦人科学会ガイ ドライン.....	398 (3)
いつ避妊は必要なくなるか？—英国産婦人科学会ガイ ドライン.....	504 (5)
閉経の予知としての抗ミューラー管ホルモン利用	606 (6)
新型コロナウイルス感染症ワクチン接種—他のワクチ ン接種との間隔.....	702 (7)